

福祉とやま

ふれあいネットワーク (福) 富山県社会福祉協議会広報誌

1 2026
月号
January

No.485



富山短期大学の学生と子どもたちが交流するワークショップ

目次

CONTENTS

特集 P2~3 「こどもまんなか社会」の実現を目指して

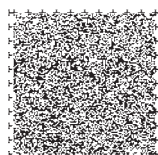
県福祉人材センターから
令和7年度シニアタレント・語り部養成研修会 P4

知っておきたい福祉情報 社会福祉施設経営相談室から
あかいはねトピックス P5

ボランティアグループ紹介
日常生活自立支援事業 専門員研修会を開催 P6
生命保険協会富山県協会贈呈式

令和7年度NPOチャレンジプロジェクトを実施
令和7年度地域災害対応力強化研修を開催 P7
新展示品の紹介

フリートーク
富山県に令和8年度予算要望書を提出 P8
編集後記



スマートフォン用アプリ「Uni-Voice」
または「Uni-Voice Blind」を使えば
情報を音声で読み上げると同時に、テキストで表示されます。



この広報誌は共同募金の助成を受けています。

「こどもまんなか社会」の実現を目指して

「こどもまんなか社会」とは、すべてのこども・若者が、身体的・精神的・社会的に、将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活できる社会を意味します。誰一人取り残さないためには、どうすればよいのでしょうか。

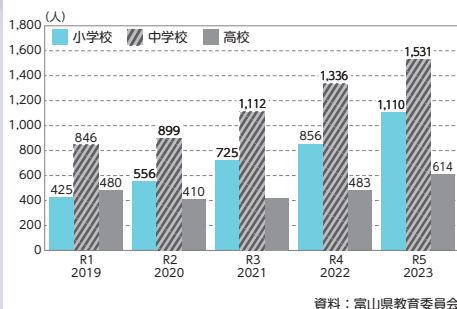
今回の特集では、県内の相談支援機関や民間のこども・子育て支援の取り組みを紹介し、「こどもまんなか社会」を実現するための地域づくりについて考えます。

富山県のこどもを取り巻く状況

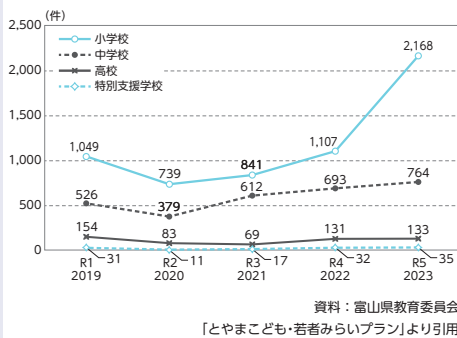
近年、さまざまな要因から、ひきこもりや不登校、ヤングケアラーなど、社会生活を営む上で困難を抱えるこどもや若者が増えています。閉鎖された家庭環境では、問題が見つかりにくく、またど

こに助けを求めたらよいかわからないまま、孤立に苦しむこどもや若者も少なくありません。成長期のこどもたちにふさわしい生活環境を整えるために、どんな仕組みがあるのか、専門家に話を聞きます。

不登校児童生徒数の校種別内訳（富山県）



いじめ認知件数の校種別内訳（富山県）



4つの相談機関を 富山駅前を集約



富山児童相談所こども相談センター
佐原 憲英さん

複雑化する悩みに応えたい ～富山県こども総合サポートプラザの役割～

専門性を活かした 顔の見える連携

Q 県の相談機関が一カ所に集約されているのは全国でも珍しいそうですが、どんなメリットがありますか？

佐原 県をとり巻く環境は複雑化・多様化しています。いじめや不登校、ひきこもり、非行といったさまざまな問題も、複雑に絡み合っているケースがあり、サポートする側も専門家の知恵を出し合う必要があるのです。分室や複数拠点というスタイルも活用しながら、一カ所に集めることによって、入口としての機能を強化し、相談者に対して迅速かつ適切に対応できると考えます。また、4つの相談機関に加え、『県女性相談支援センター』の女性相談窓口を週3日併設し、暴力や家庭・人間関係等に悩みをもつ女性からの相談にもお応えしています。

Q 具体的には、どのような相談に対応されていますか？

佐原 昨年4月にオープンしてから半年余りで、電話と来所を合わせて1300件を超える相談を受けました。内容として最も多いのは非行問題で、次いで不登校の相談が多くなっています。

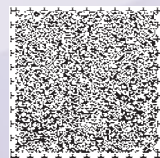
不登校の相談については、児童相談所と総合教育センターが日常的に情報共有し、面接も一緒に行っています。さらに、不登校や引きこもりが長期化しているような相談では、こども・若者総合相談センターも相談支援を行います。

各相談機関の職員は、週1回、連携会議を開き、事例の共有や情報交換を行っています。さらに、市町村で対応に苦慮している事例について、「富山こどもサポート弁護士会」の弁護士の助言も受けながら検討する場を設けるなど、市町村との連携も図っています。

ワンチームで悩みを ワンストップ！

Q 悩んでいる方にメッセージをお願いします。

佐原 富山駅前にある当プラザは、公共交通機関を使って県内どこからでも足を運び



やすいのではないかと思えます。来所には、まずお電話またはWEBで相談予約をいただけたらと待ち時間がなくスムーズです。電話のみ、また匿名での相談も可能です。

4つの機関がワンチームとなりワンストップで受け止めたいと考えていますので、こどもや家庭に関するお困りごとは、ひとりで悩まずご相談ください。

リボンformとやまの活動



富山短期大学幼児教育学科
明柴 聰史さん

多様な課題に対応するためには、行政だけでなく、こどもを見守り支える民間の力も欠かせません。こども食堂や親子向けの支援を定期開催し、少人数の家庭的保育や訪問保育サービス事業を手がける『NPO法人リボンformとやま』の活動について、代表理事であり、富山短期大学 幼児教育学科 准教授、ボランティア支援センター長の明柴聰史さんに話を聞きます。

民間で取り組むこどもの居場所づくり ～NPO法人リボンformとやまの取り組み～

目指すのは ”第3の居場所”



ワークショップを展開する保育士の卵(学生)

Q: こどもたちのために多角的な活動を展開されていますね。
明柴: 『リボンformとやま』は、富山短期大学の卒業生で現役の保育士たちが地域福祉の課題を発見し、改善策を地域の方と一緒に考え、実践する団体です。『保護者が笑顔で幸せじゃないとこどもも幸せになれない』をモットーに、家庭

○問い合わせ先
富山県こども総合サポートプラザ
総合窓口
076-481-7401
（月～土曜 祝）
【開館時間】10時～18時

WEB相談
予約は
こちらから
申込可能です



でも学校でもない、また親にとっては職場ではない”第3の居場所”が提供できるよう、多角的にアプローチしています。

Q: こども食堂は各地で増えている印象があります。

明柴: 県内のこども食堂の数は令和7年11月時点で80ヶ所以上あります。ただそれでも、全国的に見れば決して多いとは言えません。こども食堂から貧困家庭を連想する方がまだ少なくないので、お子さん一人でも、またどんな親子でも利用できることを改めて知ってもらえたらと思います。基本的にお子さんは無料で、大人は料金が必要です。私たちの活動では、食事だけでなく、そこに親子のコミュニケーションが育まれる企画をプラスしたり子育ての相談コーナーを設けたりしています。

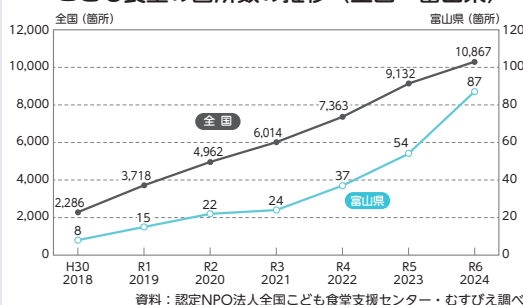
親子とともに 地域も育てたい

Q: そこには、どんなねらいがありますか？

明柴: こどもを育てると言いますが、親も分らないところから一緒に育つものなんです。もっと言えば、地域も一緒に育てていかなければいけないものと考えています。そのため、高校生や地域の方にもボランティアにご協力をいただいています。私たちの活動は、いきなりハイリスクな問題に立ち向かうというよりも、何か

起こる前に”社会的実家機能”として、心のよりどころになるのがねらいです。開かれた場で、何かSOSを見出した時は手をさしのべ、リボンで結ぶように人と人、人と地域や世界を繋がれたらと思っています。

こども食堂の箇所数の推移（全国・富山県）



○問い合わせ先

NPO法人
リボンformとやま
TEL 090-7495-4179

ホームページでも活動の様子が紹介されています。



◆富山県こども・若者支援 機関マップ

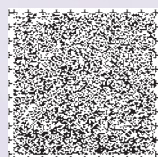
こどもや若者に
関する相談窓口
が確認できます



こどもと家庭を 地域全体で支える

「すべてのこどもたちが健やかに成長し、自分らしい生活を送ることができるようになるためには、家庭や保護者、行政等だけでなく、地域社会全体でこどもの成長と子育てを支えることが重要と考えられます。

こどもは社会の希望であり、保護者のみならず、地域社会にとってかけがえのない存在です。こどもや若者、そして子育て当事者が気兼ねなくさまざまな制度やメニューを利用できるように、すべての人が理解・認識を深め、こどもや子育てを応援する気運を醸成していきたいと思います。



県福祉人材

センターから

人材センター公式
LINE アカウント

登録は
コチラ！



がんばる介護職員「がんばりすと」が表彰されました！

11月3日(月・祝)にファボーレ(富山市)で開催された「介護の日フェスティバル」において、第12回「がんばる介護職員応援事業」表彰式が行われ、22名の「がんばりすと」に富山県福祉人材確保対策・介護現場革新会議の宮田伸朗会長から表彰状が授与されました。

この表彰は、介護福祉士の資格を取得し、福祉・介護の現場において、新任職員などへの指導・相談や職場のチームワークづくりに積極的に取り組むとともに、一定の研修を修了し、技術等の向上にも努めている中堅職員を表彰することにより、介護のやりがいや魅力を発信することを目的に実施しています。

22名の「がんばりすと」は、当センターウェブサイトで紹介しています。ぜひご覧ください。

(介護の中堅職員ががんばりすと 検索 で検索)



宮田会長と「がんばりすと」の皆様

はじめての福祉の仕事サロンを 開催します！

福祉の仕事についての基本的な内容や現場の状況などについて、キャリア支援専門員がていねいにお答えします。

●対象 福祉・介護分野に興味・関心のある求職者の方

●日時 1月22日(木) 13:30～16:00
2月26日(木) 13:30～16:00

●会場 県総合福祉会館

●定員 10人(先着順)

※開催日の3日前までに右記QRコードよりお申込みください。



県内ハローワークにて 出張相談をおこなっています！

県内6か所のハローワークで、「福祉・介護のお仕事相談コーナー」を開設しています。キャリア支援専門員が、就職活動のアドバイスや、求職者にふさわしい職場の開拓と事業所への助言を行うことにより、円滑な就労・定着を支援します。

＜相談コーナー開設日＞

高岡	ハローワーク高岡 毎月 第4火曜日	小矢部	ハローワーク砺波 小矢部出張所 毎月 第3木曜日
魚津	ハローワーク魚津 毎月 第1・第3水曜日	滑川	ハローワーク滑川 毎月 第3火曜日
砺波	ハローワーク砺波 毎月 第2・第4金曜日	氷見	ハローワーク氷見 ※1月のみ 毎月 第1木曜日 1/5(月)実施

参加希望
問い合わせ先

県社協 県福祉人材センター
県保育士・保育所支援センター
TEL 076-432-6156

【開所日】月曜日～金曜日
(土・日・祝日および年末年始を除く)
【受付時間】8:30～12:00 / 13:00～17:00

シニアタレント・
語り部に
登録しませんか

令和7年度 シニアタレント・語り部 養成研修会

参加者募集のお知らせ

●参加対象：計80名程度

- シニアタレント・語り部の登録を希望される方 30名程度
(概ね60歳以上の方で、長年にわたって培った知識・能力を地域社会で活用し、活動する意欲のある方、活動が期待される方、模範的な活動を行っている方)
- シニアタレント・語り部バンク登録者 50名程度
(既登録者の皆様には直接ご案内を送付します)

●内 容：[講 義] 演題「聞き手を惹きつける語りのあり方」
I.S.K有限会社 代表取締役 市井 啓子氏
[活動事例発表] 語り部 和田 修健氏

●日 時：令和8年3月5日(木) 13:30～16:00

●会 場：県総合福祉会館

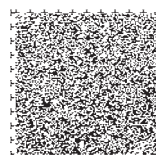
●募集締切：令和8年2月20日(金)

●参加費：無料



【申込方法】郵便ハガキ・FAXに、①郵便番号、②住所、③氏名、④年齢、⑤電話番号をご記入のうえ、当センター「シニアタレント・語り部養成研修会係」までお送りください。締め切り後にご案内を送付します。

○問い合わせ先 県社協 県いきいき長寿センター TEL 076-432-6010 FAX 076-432-6009



社会福祉施設経営相談室から

監事の監査報告書

専門経営相談員

中村 厚（公認会計士・税理士）

監事の監査報告書については、監事の監査報告書の様式例について（平成30年4月27日厚生労働省社会・援護局福祉基盤課事務連絡）が発出されています。会計監査人の設置の有無等により監事の監査報告の内容が異なるので、この事務連絡では次の別紙1から別紙3の3種類の様式例が示され、さらに（参考書類）として様式例の解説がされています。

なお、その後「社会福祉法人の設立・運営に係る手続きにおける押印の廃止について」（令和2年12月25日 厚生労働省

なお、ここでは、最も適用例が多いと考えられる（別紙1）のみを掲載します。

- （別紙1）〈会計監査人非設置法人用〉
- （別紙2）〈特定社会福祉法人用〉
- （別紙3）〈特定社会福祉法人以外の会計監査人設定法人用〉

別紙1：会計監査人非設置法人の文例

監査報告書

令和〇年〇月〇日

社会福祉法人 ○○○○
理事長 ○○○○ 殿

監事 ○○○○ 様

監事 ○○○○ 様

私たち監事は、令和〇年〇月〇日から令和〇年〇月〇日までの令和〇年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討しました。

2 監査の結果

（1）事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

（2）計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

あかいはね トピックス



第79回赤い羽根 共同募金運動について

第79回となる赤い羽根共同募金運動が「じぶんの町を良くするしくみ」をメインテーマに、今年も10月1日から展開されました。

（11月30日現在集計

60,145,232円）

県民の皆様方からの温かいご支援を賜り、関係者一同深く感謝いたしております。

お寄せいただきました募金は、令和8年度に県内の福祉施設や福祉関係団体、NPO、ボランティアグループが行う地域福祉活動等に助成し、高齢者、障害者、こどもたちなどを支援する活動に役立てられます。また、近年頻発している災害時には、「災害ボランティアセンター」の設置や運営など被災地支援にも使われます。

また、12月1日から25日まで実施された「NHK歳末たすけあい」の寄付金については、県内の高齢者・障害者・児童福祉関係施設等の年末年始のふれあい事業等に助成されます。

県内の社会福祉事業が一層推進するよう役立ててまいります。

テーマ型募金 はじまります

緊急的に解決すべき特定の地域課題やそのための活動を共同募金の募金テーマとして設け、地域課題や社会課題解決に取り組む「テーマ型募金」を、県内では左記のとおり1月1日から3月31日まで実施します。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

● 地域食堂の起ち上げ支援募金

滑川市共同募金委員会

TEL 076-475-7000

● あったか雪募金（豪雪地における独居高齢者等の除雪支援）

黒部市共同募金委員会

TEL 076-554-1082

● 地域食堂支援募金

立山町共同募金委員会

TEL 076-463-3356

助成団体活動事例を 紹介します

（福中央共同募金会のWebサイトに「赤い羽根データーベースはねっと」では、全国の助成団体の活動事例が紹介されています。

是非、県内も含めた各団体が、助成によって実施した活動内容を確認いただき、より一層身近なものに感じてくださるようお願いいたします。

○問い合わせ先

（福）富山県共同募金会

TEL 076-431-9800

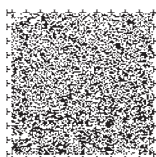
www.akahane-toyama.or.jp



富山県共同募金会



はねっと



ボランティア
グループ紹介

富山のこどもにもデジタル教育を 都市圏との教育格差を解決するために

CoderDojoとなみ(砺波市)

砺波市鷹栖で、小中高生に向けたプログラミング学習支援を行っている「CoderDojo」となみ。5年前に富山へ移住した吉川さんが、令和2年12月に立ち上げました。当時はまだ地域でプログラミング教育という言葉が浸透していなかった頃、「富山に根ざした場所、子どもたちが自由に学べる環境を作りたい」という強い思いが原点となり、現在は毎週土曜日の午前中に活動しています。



代表 吉川 圭太さん

今では県内に11箇所ある「CoderDojo」ですが、その先駆者とも言えるのが「CoderDojoとなみ」です。自治体と連携したイベントなどを通じて、道場に通う子どもたちも増えてきました。

2名。現役のプログラマーやWebデザイナーといった経験豊富な社会人と一緒に、楽しみながら技術や考え方を身につけられる点が大きな魅力だと吉川さんは語ります。かつて小学生の頃に通っていた生徒が、夏休みなどに元気な顔で



大人も子どもと一緒に学びあう空間作りを徹底

見せに来てくれること、そして成長した成果を見せてくれることが何よりの喜びです。「自分たちが掲げたテーマは間違っていないかった」と確信でき、今後の活動への大きなやりがいにつながっています。

一方で、吉川さんは「都市圏との教育格差により、まだ十分な機会を得られていない子どもが多い」という課題も感じています。「いつか全国や世界規模のコンテストに挑戦できるような環境を作りたい」。そんな希望を胸に、子どもたちの学習をサポートするボランティアを募りながら、活動を続けています。



自分が興味ある分野を学び、相互に教えあう環境

〇問い合わせ先

CoderDojoとなみ

TEL 0763-234-253

本人が参画する 「意思決定支援」について考える

県社会福祉協議会は、11月13日、市町村社協専門員のソーシャルワーク技術の向上を目的に、「富山県日常生活自立支援事業 市町村社協専門員研修」を開催しました。

講師に東洋大学福祉社会デザイン学部 教授 高山直樹氏を迎え、「地域共生社会の実現に必要な権利・人権に対する考え方や、権利擁護を推進するためのアセスメント・ネットワーク構築のあり方、本人が意思決定を行うための支援方法などについて、事例検討をとおして学びを深めました。

参加者からは、「支援者も当事者である」という言葉が印象的だった。「本人の苦悩に目を向け、意思を真ん中においた支援の大切さについて考えることができた」などの感想が寄せられました。



講演する高山教授

「県生命保険協会より 上市町社協 へ福祉巡回車を寄贈」

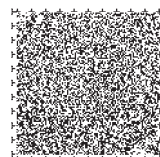
11月4日、県総合福祉会館において、生命保険協会富山県協会（以下、県協会）より、上市町社協へ福祉巡回車の寄贈が行われました。

県協会による車の寄贈は平成4年度より行われており、今年度まで、あわせて58台が寄贈されました。

寄贈式では、県協会の木下泰浩会長より趣旨説明があった後、上市町社協の吉田清人会長へ車のキーが手渡されました。福祉巡回車は上市町社協において、住民の福祉活動の支援や地域への訪問等に使用されます。



右から上市町社協吉田会長、
県協会木下会長、県社協高畑専務理事



若者のNPOチャレンジを支援

7月17日から9月30日にかけて、大学生を対象に「NPOチャレンジプロジェクト」を実施しました。本プロジェクトは、県内NPOでの活動体験を通じて社会貢献への関心を高め、NPO活動への参加を促すことを目的としています。今年度は23人の学生が活動体験に参加しました。

7月17日のオリエンテーションでは、富山短期大学の明柴聰史准教授による講義や、昨年度参加者による体験談発表、活動体験先となるNPO 15法人による活動紹介が行われました。

学生たちはその後、関心のあるNPOを1〜5法人選び、まちづくり、就労支援、こどもの居場所づくりなどに取り組む13法人で活動を体験しました。

9月30日の参加者交流会では、トークグラフィッカー®山口翔太氏とともに、グラフィックレコーディングを用いた振り返りを行い、活動体験を通じて得た学びや、今後NPOやボランティアにどのような関わりたかについて意見を交わしました。

参加者からは「多様な分野のNPOで実際に活動できてよかった」「多くの人と関わる中で視野が広がった」との声が寄せられました。



グループワークで学びを共有



参加者交流会グラフィック
(トークグラフィッカー®山口氏作成)

○問い合わせ先

県社協 県ボランティアセンター
TEL 076-4332-6123

地域災害対応力強化研修を開催

県福祉カレッジでは、10月29日に高志会館で、福祉・医療・行政等の専門職を対象に、災害時のソーシャルワーク支援について学ぶことを目的とした同研修を開催しました。(50名参加)

研修では、県福祉カレッジの大橋謙策学長から「能登半島地震・集中豪雨被災者支援から社会福祉関係者は何を学ぶか」と題し、災害被災者支援ソーシャルワークの重要性について講義がありました。また、内閣府参事官補佐の木村圭佑氏による講義では、今年6月の法改正を踏まえ、被災者支援の充実に向けた災害法制への福祉的支援の位置付けについて話がありました。

後半のシンポジウムでは、能登半島地震において支援に携わった4名の方に登壇いただき、各々の分野での活動や取り組みについて報告していただきました。

(福)海望福祉社会の小林一行氏からは富山県災害派遣福祉

チーム(富山DWA T)の活動について報告いただき、石川県(福)穴水町社会福祉協議会の橋本みすず氏、(福)石川県社会福祉協議会の村田明日香氏からは社会福祉協議会における地域の生活課題の解決に向けた支援の取り組みについて、同じく石川県の(福)長寿会の高堂泰孝氏からは、発災後からの福祉施設の経営と現状、今後の展望について、それぞれ話がありました。その後、災害時の福祉支援のあり方、災害発生に備えた平時からの取組み、今後必要な手立て等について意見交換をしました。コーディネーターを務めた大橋学長からは、地域全体の福祉支援の継続を目的とする地域BCPの必要性について話がありました。

今後も県福祉カレッジでは、災害時にも対応できる持続可能な地域づくりをテーマに研修を実施します。

福祉用具を展示しています!

当センター内展示コーナーでは、福祉用具や介護ロボットを展示しています。ぜひお気軽にお越しください。

展示中の福祉用具紹介します!

義足や装具の上から履ける長靴

長靴を前方で切り開き、義足や装具、リンパ浮腫など様々な状態の足に合わせて防水性の生地を追加することで通常よりもはるかに大きく履き口が広がり、スムーズに脱ぎ履きをすることが可能です。

【店名】

長尾製靴所

【参考価格】

片足加工 7,800円(税込)
両足加工 9,800円(税込)



○問い合わせ先

県社協 とやま介護テクノロジー
普及・推進センター
TEL 076-4332-6305

【開催時間】

平日 午前8時30分から

午後5時15分まで

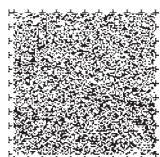
土・日・祝日 午前10時から

午後4時まで

【休館日】

日曜日の場合は

その翌日(年末年始





【居住支援法人】について



一般社団法人こ・こいる
 TOYAMA
 代表
 金木 由美子さん

居住支援法人とは、住宅確保に困難を抱える人々が安心して住まいを確保できるよう、支援を行う法人です。特に高齢者、障害者、低所得者、ひとり親家庭など、住宅を借りる際に困難を感じやすい方々へのサポートを目的として県より認可を受けて活動しています。

近年、保証人の確保や低収入などを理由に、民間賃貸物件の貸し渋りと言われるケースが増えています。こうした状況に対応するため、国及び自治体により住宅確保要配慮者の居住支援を強化するため、居住支援法人制度が設立されました。

2017年からスタートした制度ですが、まだ一般への認知度は低く、富山県においても2020年に第一号が登録され、5年経過しておりますがまだ生活支援課の窓口で初めて耳にするという方が大半です。福祉業界の方においてもまだまだ耳馴染みが無いようで、民間による貧困ビジネスなん

だろうという思いの方も多くなと感じています。私は主とする事業が障害者グループホームの運営であり、相談支援事業も今年よりスタートしました。区分の軽い障害者の方は、適切な支援や見守りの安心があれば独居は可能です。それを見据えてグループホームを卒業したあとも切れ目のない支援で独居を支える手段として居住支援法人の認可を取ることにしました。

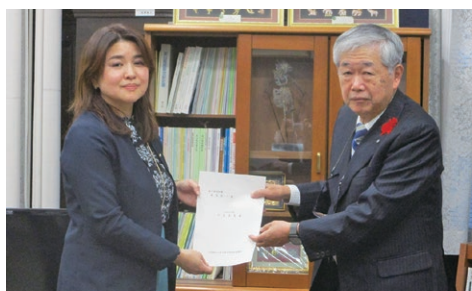
他の事業者さんもこれからの地方での住宅確保要配慮者に対する入居の支援を真剣に考えている方々です。

これから増える単身の高齢者・障害者の方々の地域での受け皿を拡充し、支援出来る体制を整え、セーフティネットとして機能させる事が、福祉の観点からも重要なのではないのでしょうか？その為にもぜひ富山についての居住支援というものに関心を持っていただければと思います。

富山県に令和8年度予算要望書を提出

11月18日、県社会福祉協議会(県社協)は、富山県庁において、有賀厚生部長に令和8年度予算要望書を手交しました。

県社協の高城繁副会長、小島伸也副会長が、市町村社会福祉協議会や社会福祉法人・施設など関係団体の現状を踏まえ、「地域共生社会」の実現に向けた地域福祉の基盤強化と包括的な支援の提供、「福祉人材の確保・定着、育成」「災害時に対応できる地域づくりの推進」などの要望内容を説明しました。



高城副会長(右)が有賀厚生部長に
 予算要望書を手交

要望事項の柱

- 1 『地域共生社会』の実現に向けた地域福祉の基盤強化と包括的な支援の提供
- 2 福祉人材の確保・定着・育成
- 3 住民が地域福祉活動に主体的に参加するための土壌づくり
- 4 福祉サービスの質の向上と地域ニーズへの対応力強化を図る福祉施設・事業所等の経営支援
- 5 災害時に対応できる地域づくりの推進
- 6 地域総合福祉の拠点である富山県総合福祉会館の早期復旧及び必要なメンテナンスへの対応
- 7 福祉関係団体の育成・支援

編集後記

虐待や不登校など子どもたちの生活環境が厳しさを増す中、官民一体で子どもを支える体制の重要性が高まっています。解決だけでなく未然防止にも焦点を当て、子どもの権利や視点を尊重する姿勢が印象的でした。実用的な相談窓口への導線もあり、地域全体で守る「子どもまんなか」の理念を今後も展開されることでしょう。

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

住民主体の地域福祉の理念に基づき、だれもが安心して暮らすことができる福祉社会の実現をめざし、県内の民生委員・児童委員、福祉施設、福祉従事者、ボランティア等で構成する、公共性と自主性をもつ民間社会福祉組織です。

本誌に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

●ウェブサイト <https://www.toyama-shakyo.or.jp/>

●メール info@toyama-shakyo.or.jp

アクセスしてね!

ハーティは富山県のボランティア活動のマスコットマークです。

ハーティ

